

心で聴こう、子どもものの言葉

伝えたいメッセージジって？

子どもの言葉は不思議で神秘的です。子どもの言葉にじつと耳を傾けていると、独り言をつぶやいていたり、聞いたことを繰り返したりしていたりします。また、子どもの考えていることを知りたくて話しかけると、思わぬ答えが返ってきたりもします。

今回は、子どもの言葉が意味しているものは何か？言葉に秘められた想いなどを紹介します。

大丈夫だよ、先生

「早くご飯食べようね。それから歯磨きして、おしっこして、もうお昼寝の時間だね。」

「先生、忙しい言葉だねえ。」
(ゆっくり口調)

子どもはじっくり大人の言葉を聞いていて、それに伴う動作や表情も読み取っています。保育士が慌ただしく動き、子どもたちに声をかけている姿を見て、ひとときわゆっくりと『先生そんなに急がなくてもいいよ』と心にゆとりを持つことを教えてくれたように感じました。

おなじ言葉の世界

「ボク、きのう天神講でカレイ食べたよ。」

「ボクも食べたことある。カレイ、お母さんが作ってくれたんや。」

「一緒やね。天神講って神様なんやよ。」

「そうなんや。こんなながあいい紙なんがぁ。」



「カレイとカレイ」

「紙」子ども同士の話の中には、勘違いがあっても思いは伝わっているかのように会話成り立つことは珍しくありません。同じ発音の言葉で意味が違ってても、子どもにとっては、普通に会話できているのだと気づきました。

自然の不思議

「パパのおててに赤とんぼがとまったの。お空は青かったのに…。」

感受性豊かな子どもたちが

なんでやろ？

「私の歯、まだはえてないの。お母さん、なんで植えてくれないんかな？」

「先生、結婚したんやって。名前も変わったって。でも…。声も顔も同じやった。なんでやろ？」

子どもの発想は愉快で、いつも『なんで？なんで？』と疑問に思っています。自分の周りで起こる出来事の原因や大人の事情など、難しすぎることは理解できない



こんなおもしろい言葉も

保育士:おしっこに行ってくるからお部屋で待っていてね。

子ども:おしっこ?

保育士:そう。すぐ帰ってくるね。

子ども:先生、そこにオマルあるよ。

*くつ買ってもらった。でも先生は履かれないよ。もう少し待っててね。私みたいな足になったら履けるから。

*先生ほら、立ってパンツはけたよ。私のお父さんもパンツ立ってはけるようになったんだよ。

A子:お父さん、会社にゴミ持っていくんや。

B子:なんでや?

A子:行ってきまーすゆうてそれからゴミもつんやもん。



いかもしれませんが。でも、子どもなりに『こうだからかな?』こうなのにな』など、よく考えていることが何気ない言葉から伝わってきます。

心のサイン

「泣いていないよ。涙が目のところは固まっているだけなの。」

「ごめんなさいは言わないよ!だって心の中で言っただもん。」

子どもは自分の本当の気持ちを隠して強がったり、素直になれなくてつい発してしまいう言葉があります。反発しているように思われがちですが『私の気持ちを

分かってく』と、相手にサインを送っていることに大人が気づき、想いをくみ取ってあげることが大切だと思います。

その時々、子どもの

言葉が生まれた情景を思い浮かべると、見えなかった子どもの世界に気づくことができます。

子どもからの言葉にもっと向き合い、その奥に隠された『心』を感じ取れる大人でありたいと思えました。

みんなの広場

環境のアイデア

足羽東保育園では、子どもに伝えたいことを絵や文字で掲示し、目で見えてわかるようにしています。

〈廊下は歩こう〉

走っていた子どもカードを見てテクテク。

〈このお部屋かな〉

各お部屋の看板を見れば一目りよう然。



「曲がり角も安全」



「走るのストップ」



「紙はこっちだね」



「かわいい絵で表示」

すれちがいもぶつからないよう、右側通行で。

燃えるゴミ? 燃えないゴミ? 自分で考えポイ。

〈ゴミは分別しよう〉